



東京芸術祭 2023

Tokyo Festival 2023

2023（令和5）年9月1日（金）～10月29日（日）

東京芸術劇場、ロサ会館、東京都豊島区池袋エリアほか

<https://tokyo-festival.jp/>

「東京芸術祭 2023」 演目ラインアップ発表のご案内

東京芸術祭実行委員会は、2023年9月1日（金）から10月29日（日）にかけて豊島区池袋エリアを中心に開催する「東京芸術祭 2023」の演目ラインアップを発表します。

■事業に関するお問い合わせ

東京芸術祭実行委員会事務局 TEL：050-1746-0996（平日10:00～18:00）

■広報に関するお問い合わせ

東京芸術祭実行委員会事務局広報 E-mail：press@tokyo-festival.jp
TEL：050-1751-9480（平日10:00～18:00）

芸術文化の未来をつくる 国際舞台芸術祭「東京芸術祭 2023」

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、毎年秋に豊島区池袋エリアを中心に開催している都市型総合芸術祭です。東京の文化の魅力を分かりやすく見せると同時に、東京における芸術文化の創造力を高めることを目標とし、今年で8年目を迎えます。

中長期的には、社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そして、グローバル化への対応を視野に入れ、日本最大級の舞台芸術を中心とした幅広いジャンルの公演事業、アートプロジェクト、また、芸術分野で国際的に活躍する人材の育成プログラムも多数実施し、“芸術文化の未来をつくる芸術祭”を展開しています。

事業の2本柱を設定

舞台芸術の上演・配信・地域を巻き込む催しなどからなる「東京芸術祭プログラム」と、人材育成と教育普及の枠組みである「東京芸術祭ファーム」との、2本の柱で構成する構造に事業を再編しました。それぞれが役割を明確にし、有機的につながることで、芸術祭のミッションの実現を果たしていきます。

■東京芸術祭 2023 に関する最新情報を随時配信します

公式サイト <https://tokyo-festival.jp/>

※8月1日（火）、東京芸術祭 2023 特設サイトを公開予定

Facebook @tokyofestivalsince2016

Twitter @tokyo_festival

Instagram @tokyo_festival

19 プログラム ラインアップ

2023年6月30日現在

東京芸術祭プログラム			
掲載ページ	日程	演目	会場
p.5	未定	SPAC・静岡県舞台芸術センター 『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』	未定
p.6	10月20日（金） ～26日（木）	芸劇オータムセレクション 太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ） 『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』	東京芸術劇場 プレイハウス
p.7	9月1日（金） ～24日（日）	芸劇オータムセレクション 東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎 『勸進帳』	東京芸術劇場 シアターイースト
p.8	10月7日（土） ～15日（日）	ロロ 『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト（カタログ版）』	東京芸術劇場 シアターイースト
p.9	9月～10月 ※一部プログラムを 8月から実施（予定）	くらしチャレンジクラブ	豊島区内各所
p.10	10月上旬	とおくのアンサンブル	東京芸術劇場 ほか 池袋エリア周辺
p.10	10月11日（水） ～22日（日）	東京芸術祭ひろば	東京芸術劇場 アトリエイースト
p.11	10月11日（水） ～22日（日）	EPAD Re LIVE THEATER ～時を越える舞台映像の世界～	東京芸術劇場 シアターウエスト
p.12	10月13日（金） ～20日（金）	アトカル・マジカル学園 アートサポート児童館	東京芸術劇場 アトリエウエスト
p.13	10月14日（土） 15日（日） 21日（土） 22日（日）	アトカル・マジカル学園 かぞくアートクラブ	東京芸術劇場 アトリエウエスト
p.14	10月21日（土） ～29日（日）（予定）	パフォーマンス展望室	ロサ会館
p.15	10月21日（土） ～22日（日）	東京芸術祭×愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション 2023 in Tokyo	東京芸術劇場 シアターイースト
p.16	10月21日（土） 27日（金）	テアター・エカマトラ『マライの虎』を巡るトーク（事前上映つき）	東京芸術劇場 シンフォニースペース
東京芸術祭ファーム			
p.18	8月23日（水）	東京芸術祭ファーム2023 ラボ 公開レクチャー	オンライン
p.19	10月9日（月・祝）	東京芸術祭ファーム2023 ラボ Asian Performing Arts Camp In-Tokyo Sharing Session	東京芸術劇場 アトリエイースト アトリエウエスト
p.20	—	東京芸術祭ファーム2023 ラボ 制作アシスタント	—
p.20	—	東京芸術祭ファーム2023 ラボ アートトランスレーターアシスタント	—
p.20	—	東京芸術祭ファーム2023 ラボ ファーム編集室 アシスタントライター	—
p.20	—	東京芸術祭ファーム2023 スクール	—

世界を反転させて

陽気になる方法

明日は今日より良くなる、と思っている人が、減ってしまった気がします。

日本という国のイメージが、たとえば「全体として古くなった服」のような感じで、どこかの穴を修繕すればV字回復する、とは思えない。 ホツれを直そうとすると別のところが薄くなって穴があく。そういう感じかもしれません。 もしそうなら、最上の策はみんなで我慢すること、となりそうですが、明日が今日より良くなると思えずに我慢していても何も生まれえないんじゃないかと心配になります。

そこで提案したいのですが、今の日本をいっそ「落ち目の国」と定義してしまうのはどうでしょう。 そんなことしたら一層元気がなくなるぞというご意見もあるかと思いますが、でも「落ち目」を経験した国って、歴史上にいくつもありますよね。 日本以外にも色々な前例があると知れば、心に余裕ができるのではと思うのです。

心に余裕ができる。 ここからいきなり結論に飛びますが、落ち目から復活できた国はどんな国かと見てゆくと、それは「人間は楽しむために生きていいんだ」という考えが堂々と認められている国だ、ということに気づきます。 たしかに、生きていて楽しい、と思える国は滅びないですよ。 この楽しみを次世代にも、と人々が思うから。 みんなで我慢する、の真逆の策です。

で、人間が人生を楽しむために発明した“人類の知恵”が、「お祭り」です。 誰でも参加できるお祭り。

そしてお祭りのないところにお祭りを作るのは、いまや行政の仕事だと言っていいでしょう。 今の日本の状況を根底から変えるには、国民が国に対して「人生を楽しませろ！」と堂々と要求していいはずですよ。

そしてまたいきなりですが。

今年の秋、東京は、ちょっと頑張って、東京芸術祭をやります。

東京芸術祭 総合ディレクター
宮城 聡



(C) Ryota Atarashi

宮城 聡 みやぎ・さとし

演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長。東京芸術祭総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。近年はオペラの演出も手がけ、2022年6月フランス・エクサンプロヴァンス音楽祭にて『イドメネオ』、同年12月にはドイツ・ベルリン国立歌劇場における初の日本人演出家として『ポントの王ミトリダテ』を演出。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

SPAC-静岡県舞台芸術センター
『マハーバーラタ
～ナラ王の冒険～』

演出：宮城 聡
台本：久保田梓美
音楽：棚川寛子

日程：未定
会場：未定



Photo by K.Miura

『マハーバーラタ』を通して 世界と出会う

本作は2003年に初演され、以来世界各地で上演されています。2014年には、アヴィニョン演劇祭の公式プログラムとして招聘され、かつてピーター・ブルックが“発見”した「ブルボン石切場」にて上演。壮大で創意に富んだ演出や絵巻物のように美しい舞台は注目を集め、絶賛されました。その伝説の舞台が今回限りの設えで上演されます。

宮城 聡 みやぎ・さとし
(→P.4参照)

芸劇オータムセレクション
太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)

『金夢島 L'ÎLE D'OR
Kanemu-Jima』

作・出演：太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)

演出：アリアヌ・ムヌーシュキン

(2019年京都賞受賞)

創作アソシエイト：エレヌ・シクスー

音楽：ジャン=ジャック・ルメートル



日程：10月20日 (金) ~26日 (木) ※23日 (月) 休演

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

ようこそ、芝居の国の旅人たち。フランスから日本へ。夢の祝祭劇、開幕！

世界的演出家アリアヌ・ムヌーシュキンが率いるフランスの太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) の22年ぶり2度目となる来日公演がこの秋ついに実現。日本文化へのオマージュが込められた新作『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』。21年秋にパリで初演され、日本と思しき架空の島で繰り広げられるスペクタクルが絶賛を博しました。まさに魂を揺さぶる演劇の力。劇場に一步入れば、世界が変わる。太陽劇団が放つダイナミズムにご期待ください。

私たちの“金夢島”は、日本を夢見て創られました。
時には悪夢のような、風変わりな想像の日本。永遠の愛と憧れを込めて。
アリアヌ・ムヌーシュキン

【あらすじ】

舞台は現代。入院中のコーネリアが夢の中で日本と思しき架空の島「金夢島」を旅する。そこでは国際演劇祭で島興しをしたい市長派と、カジノリゾート開発を目論む多国籍企業グループが対立していた。マスコミやビジネスマン、弁護士や外国の劇団員たちが入り乱れて、事態はあらぬ方向に転がっていく……

<チケット情報>

■発売日：一般発売7月15日 (土) 10:00~

■料金 (全席指定・税込)：S席 9,800円 A席 7,800円 65歳以上 (S席) 8,300円 25歳以下 5,500円
高校生以下 1,000円

*フランス語上演 (多言語の使用場面あり) ・日本語字幕付き

*アクセシビリティ：全日程で各席種の定価より障害者10%割引、車椅子スペース、ヒアリングループ (磁気ループ) 作動、託児サービス (詳細は東京芸術劇場 鑑賞サポート情報をご覧ください)

<https://www.geigeki.jp/access/support.html>

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) Théâtre du Soleil

太陽劇団は1964年にフランスで設立。総勢約110名。25ヶ国以上から集まったメンバーからなる多国籍・多民族の劇団である。パリ郊外のカルトゥーシュリ (弾薬庫跡) を活動拠点とし“集団創作”というユニークなスタイルで知られている。社会への問題意識も鋭く作品に反映し、古典から現代劇まで幅広いレパートリーを持つ。フランス革命を題材とした『1789』 (1970年初演) で大成功を収め、以来現代演劇のトップランナーとなった。劇団には自慢の食堂もあり、楽屋の様子もオープンで祝祭感に満ちた“演劇の理想郷”には、演劇ファンをはじめ家族連れも多数訪れている。

アリアヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine

演出家/太陽劇団創立者・主宰

1939年パリ生まれ。59年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団A.T.E.P. (パリ学生演劇協会) を結成、

64年にここから太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) が旗揚げする。その前年に日本を旅し、この時の日本文化体験が、その後のムヌーシュキンの演劇人生に大きな影響を及ぼしたという。映画『1789年』、『モリエール』など監督作品もある。一方でワークショップを世界各地で開き、若き演劇人の育成にも励んでいる。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞 思想・芸術部門を受賞した。

芸劇オータムセレクション
東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎
『勸進帳』

監修・補綴：木ノ下裕一
演出・美術：杉原邦生 [KUNIO]
出演：リー5世 坂口涼太郎 高山のえみ 岡野康弘 亀島一徳
重岡 漢 大柿友哉
スウィング：佐藤俊彦 大知

日程：9月1日（金）～24日（日）
会場：東京芸術劇場 シアターイースト



キノカブ×杉原邦生によるあの名作が、初の東京公演！

2010年初演、2016年に再創作され、フランス・パリ公演でも好評を博した、キノカブ版『勸進帳』。義経一行の関所越えを描いた忠義の物語を大胆に再構築し、既成概念を打ち破った快作が、2023年、ついに初めての東京公演！

現代社会をとりまく<境界線>が交錯する、軽やかで濃密なドラマが帰ってきます。

弁慶が！ 義経が！ あらゆるボーダーラインを超えていく— 歌舞伎と現代劇の'あわい'を行き来するミクスチャープレイ、再び。

<チケット情報>

- 発売日：一般発売7月1日（土）10:00～（各プレイガイドにて先行販売あり）
※9月23日（土・祝）の有料トークイベントの発売は東京芸術劇場ウェブサイトをご確認ください。
- 料金（全席自由・入場整理番号付・税込）：一般 5,500 円
早割 4,500円（9月1日（金）～3日（日）公演限定、前売りのみ）
スウィング俳優出演回（9月13日（水）・18日（月・祝）公演限定）4,000 円 65歳以上 5,000 円 25歳以下 3,500 円 高校生以下 1,000 円 ペア割 10,000 円

* 日本語上演

- * アクセシビリティ：聴覚に障害のあるお客様のための「ポータブル字幕機提供」を実施（要予約）
視覚に障害のあるお客様のための「音声ガイド」を実施（日時限定・要予約）
全日程で定価（5,500円）より障害者10%割引、車椅子スペース、ヒアリンググループ（磁気グループ）作動、託児サービス（詳細は東京芸術劇場 鑑賞サポート情報をご覧ください
<https://www.geigeki.jp/access/support.html>)

木ノ下裕一 きのした・ゆういち

木ノ下歌舞伎主宰。1985年和歌山市生まれ。2006年、京都造形芸術大学在学中に古典目上上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『三人吉三』『娘道成寺』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』など。2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。令和2年度京都市芸術新人賞受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

杉原邦生 すぎはら・くにお

演出家、舞台美術家。KUNIO 主宰。2004年、プロデュース公演カンパニー“KUNIO”を立ち上げる。これまでの KUNIO の作品に、『エンジェルス・イン・アメリカ 第1部「至福千年紀が近づく」 第2部「ペレストロイカ」』、『Q1』バージョンを新訳で上演した『ハムレット』、上演時間10時間に及ぶ大作『グリークス』、大学の恩師でもある太田省吾作品を鮮烈に蘇らせた『更地』などがある。近年の主な演出作品は、スーパー歌舞伎II『新版 オグリ』、シアターコクーン『プレイタイム』、PARCO劇場オープニング・シリーズ『葦原校校』、さいたまゴールド・シアター最終公演『水の駅』、COCOON PRODUCTION 2022 / NINAGAGWA MEMORIAL『パンドラの鐘』、ホリプロ『血の婚礼』など。第36回京都府文化奨励賞受賞。<https://kunio.me>

ロロ

『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト（カタログ版）』

テキスト・演出：三浦直之（ロロ）

出演：大場みなみ 北尾 亘（Baobab） 田中美希恵
端田新菜（ままと） 福原 冠（範宙遊泳）
ほか

ロロ『BGM』2023 ©阿部章仁

日程：10月7日（土）～15日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

50名以上の登場人物が織りなす無数の物語

東京芸術祭2021では、死（者）との向き合い方をテーマに創作した『Every Body feat. フランケンシュタイン』でカンパニーとしての新境地を披露したロロ。本作は、主宰の三浦直之が、各地の大学生、および公共劇場での市民参加作品のために書き下ろす群像劇の東京芸術祭バージョン。

50名以上の登場人物のプロフィールと、“彼ら”にまつわる短いエピソードをもとに構成された、ロロ初のオムニバスストーリーを上演します。

日常の一コマを何遍も積み重ねた先に浮かび上がるのは、時代や街、あるいは、わたちたちが生きている世界そのものかもしれない。

<チケット情報>

■発売日：8月5日（土）10:00～

■料金（全席自由・整理番号付・税込）：一般 4,000 円 25 歳以下 2,000 円

高校生以下 無料（枚数限定、劇団サイトのみ取り扱い）

* 日本語上演

* アクセシビリティ：全日程で定価（4,000円）より障害者10%割引、車椅子スペース、ヒアリングループ（磁気ループ）作動、託児サービス（詳細は東京芸術劇場 鑑賞サポート情報をご覧ください <https://www.geigeki.jp/access/support.html>）

三浦直之 みうら・なおゆき

宮城県出身。ロロ主宰。劇作家/演出家。2009年、主宰としてロロを旗揚げ。「家族」や「恋人」など既存の関係を問い直し、異質な存在の「ボーイ・ミーツ・ガール=出会い」を描く作品をつくり続けている。古今東西のポップカルチャーを無数に引用しながらつくり出される世界は破天荒ながらもエモーショナルであり、演劇ファンのみならずジャンルを超えて老若男女から支持されている。ドラマ脚本提供、MV監督、ワークショップ講師など演劇の枠にとらわれず幅広く活動。2019年脚本を担当したNHKよるドラ『腐女子、うっかりゲイに告（コク）る。』で第16回コンフィデンスアワード・ドラマ賞脚本賞を受賞。

ロロ

劇作家・演出家の三浦直之が主宰を務める劇団。2009年結成。古今東西のポップカルチャーをサンプリングしながら既存の関係性から外れた異質な存在のボーイ・ミーツ・ガール=出会いを描き続ける作品が老若男女から支持されている。15年に始まった『いつ高』シリーズでは高校演劇活性化のための作品制作を行うなど、演劇の射程を広げるべく活動中。主な作品として東京芸術祭2021参加作品『Every Body feat. フランケンシュタイン』（21年）、『ロマンティックコメディ』（22年）、『BGM』（23年）など。

くらしチャレンジクラブ

ディレクション：阿部健一

日程：9月～10月

※一部プログラムを8月から実施（予定）

会場：豊島区内各所



Photo: 金川晋吾

くらし発、演劇あそびでもっとつながろう

まちの生活や風景をベースに、公園や家庭などで、こどもから大人までが気軽に演じてみることでできる短編戯曲集『くらしチャレンジ』。 昨年の東京芸術祭では、この都市生活の「練習」「提案」となるような戯曲集を豊島区内の各所で配布し、体験ワークショップを行いました。 今年も『くらしチャレンジ』の体験を深める参加者とのクラブ活動を実施。 体験者それぞれが主人公となるこの演劇あそびをとおして、まちのくらしを再発見してください！

■無料・予約不要（一部、要予約あり）

阿部健一 あべ・けんいち

1991年、東京都出身。uni代表・演出。ドラマトゥルク。千葉大学大学院園芸学研究科・博士後期課程単位取得退学。2010年、日本大学芸術学部在学中にuni（元・演劇活性化団体uni）を立ち上げ、非劇場空間での演劇活動をはじめ。2013年頃からまちを舞台に、地域の方への取材やフィールドワークを軸とした演劇創作を展開。環境と身体、時間と存在の間に立ち現れるものをテーマに、演劇とまちを横断して活動している。近年は『移動祝祭商店街 歩く庭』（東京芸術祭2021）や『地域の物語2021』『極楽フェス』（世田谷パブリックシアター）など、まちと関わるプログラムに構成やリサーチとして携わっている。大学院で地域計画学を専攻したことから、パフォーマンスの観点からまちづくりや公共空間に関して研究を行っているほか、住民参加のまちづくりやプランニングの現場にも携わる。

とおくのアンサンブル

コンセプト・演出・作曲：とくさしけんご

日程：2023年10月上旬

会場：東京芸術劇場 ほか 池袋エリア周辺



Photo: Ikeda Masanori

耳を澄ませて音や地形を体感する吹き抜け空間コンサート

サウナのための音楽や、F/T20『移動祝祭商店街 まぼろし編 その旅の旅の旅』でのまちなかで聴く音源作品など、人の営みの環境の中で音楽を捉えようとする作曲家とくさしけんごによる、吹き抜け空間で体感するコンサート。互いに離れた場所に位置する奏者同士のアンサンブルに、とおくから耳を澄ませる。東京芸術劇場やまちなかの吹き抜け空間に、金管楽器群の生音が静かに共鳴する。心地よさと覚醒が共存した音体験となるでしょう。

■無料・予約不要（予定）

とくさしけんご

作曲家。1980年青森生まれ。『MUSIC FOR SAUNA』シリーズ、ドラマ『サ道』劇伴、その他、TV、CM、ゲーム、映像、展示などのための音楽多数。『ととのうクラシック』など、クラシック音楽のコンピレーションシリーズ「新・クラシック セレクション」の監修もつとめる。第20回日本現代音楽協会作曲新人賞、第10回東京国際室内楽作曲コンクール第一位受賞。F/T19『移動祝祭商店街』、F/T20 移動祝祭商店街『その旅の旅の旅』では、その場所に元々ある音と共存し、まちの環境、聴覚に補助線を入れるような音楽プロジェクトを展開した。

インフォメーション・トーク・ワークショップ

東京芸術祭ひろば

日程：10月11日（水）～22日（日）

会場：東京芸術劇場 アトリエイースト



演劇と待ち合わせる 芸術祭のインフォメーション空間

東京芸術祭ひろばは、演目の魅力と出会えるインフォメーションスペースです。芸術祭で上演される作品たちの情報を展示紹介でたっぷりお届けするほか、関連するトークイベントやワークショップも開催！

気軽に訪れて舞台写真や映像を眺めたり、関連書籍を読みふけったり、そして観劇するみなさんが少し休憩もできる、まるで「ひろば」のような場所が現れます。

ひろばに立ち寄って見たら、演劇と思ってもよらない出会いができるかも……？

■無料（一部プログラムによっては事前予約の可能性あり）

*アクセシビリティ：車椅子の導線確保、筆談、やさしい日本語の対応可

アトカル・マジカル学園 アートサポート児童館

ディレクション：多田淳之介

日程：10月13日（金）～20日（金）
会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト



Photo by Takashi Fujikawa

子育て中でもアートを楽しむ！ こどもだってアートを楽しむ！ 託児所+アート＝アートサポート児童館！

子育て中の親のアート鑑賞と、こどものアート体験を両立させるアート体験支援型託児プログラム。親にとっての「自分だけ楽しんでる」後ろめたさ、こどもたちにとっての「預けられた」という負のイメージを払拭し、「また預けたい」「また行きたい」と思える、託児の概念を変革させるプロジェクト。

●内容：HAPPYハッピー作り

自分の好きな色、好きな素材、好きな絵を描いたり好きな写真を貼ったり、自分がHAPPYになるもので埋め尽くされたオリジナルハッピーを作って ファッションショーをしよう！※予告なく変更となる場合があります。

●申し込みに必要な条件：アートサポート児童館へこどもを預ける時間に、保護者の方がアート体験*をすること

*アート体験とは：東京芸術祭 2023プログラムの他、演劇、ダンス、音楽、芸術、映画などの鑑賞や習い事等。アトカル・マジカル学園で大人用のプログラムの準備はございません。ご自身のアート鑑賞等にお役立てください。

アトカル・マジカル学園とは？

国際アート・カルチャー都市構想により、様々な場所で色々な人々がアートやカルチャーを身近に楽しむ“未来の豊島”から、東アジア文化都市2019豊島をきっかけに現代に出現した“未来の学園”。

<申し込み情報>

■申し込み開始日：8月5日（土）10:00～

■料金（参加料・保険料込）：500円

■定員：10名程度

・10月16日（月）～20日（金）の定員は3名程度。東京芸術祭 2023の公演のご観劇の方のみ対象。

■お預かり時間：2時間（プラス 500円で最長4時間まで利用可）

・東京芸術祭 2023の公演時間に合わせた時間となります。この期間はご利用の2日前迄のお申込みとなります。

■対象：4歳～小学生

・持ち物：飲み物、おやつ、必要な方は着換え・おむつ、汚れてもいい動きやすい服装でご参加ください。

・東京芸術劇場でご鑑賞の方は、「アート体験支援型託児 アートサポート児童館」対象年齢外（3か月～3歳）のこどもを対象とした託児サービス（要事前予約、有料）をご利用いただけます。ご希望の方は東京芸術劇場公式ホームページをご確認ください。<https://www.geigeki.jp/access/support.html>

多田淳之介 ただ・じゅんのすけ

1976年生まれ。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品など様々な作品を国内外で創作。公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターを歴任し、地域や教育機関での演劇やアートを活用したプログラムを数多く手掛けている。2013年日韓合作『ガモメ カルメギ』にて韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。2019年東アジア文化都市2019豊島舞台芸術部門事業ディレクターとしてアトカル・マジカル学園を企画。東京芸術祭共同ディレクター。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。シアターねこカンパニーアートディレクター。

アトカル・マジカル学園 かぞくアートクラブ

ディレクション：YORIKO

日程：10月14日（土）、15日（日）
21日（土）、22日（日）

会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト



Photo by 山本 陸

家族、ときどき同級生。多世代で笑い、学び合うアート体験

親も子どもと同じチームメイトになって授業を受ける、とっておきの参加型イベントです！東京芸術劇場のアトリエを部室に変身させ、さまざまな分野で活躍する芸術家の方々が先生となり、体や手を動かしたり話し合ったり、共同作業や対話中心のクラブ活動を行います。家族と一緒に笑い、学び、お互いの新しい発見をするための機会です！

アトカル・マジカル学園とは？（→p.12 参照）

<申し込み情報>

■申し込み開始日：8月5日（土）10:00～

■料金（参加料・保険料込）：1家族・1コマ 500 円

■定員：9組（原則2人1組、小学生兄弟2名まで可能）

■対象：小学生（1年生～6年生）とその保護者

・持ち物：筆記用具、蓋つきの飲み物、汚れてもいい動きやすい服装

*ご参加に当たって、不安なことがある方はご遠慮なくお尋ねください。安心してご参加いただけるように可能な限り対応させていただきます。お問合せ：family.art.club.2022@gmail.com

*日本語

YORIKO よりこ

1987年埼玉県生まれ、株式会社ニューモア代表・コミュニケーションデザイナー。様々な地域で「多世代・多業種の協働」をテーマに住民参加型のデザイン・アートプロジェクトに取り組む。2020年より自社事業として、障害福祉×デザインのチーム「想造楽工」を行う。

パフォーマンス展望室

構成・演出：居間 theater

日程：10月21日（土）～29日（日）（予定）

会場：ロサ会館 R階



のぼって ひろげて 望んでみよう、展望室！

池袋を代表する総合レジャービル・ロサ会館の最上階に、期間限定の展望室がオープンします！

パフォーマンス展望室は、人や社会の“展望”を探る場所です。

池袋のまちを片目に眺めながら、それぞれに、またはともに過ごすことができる体験型作品となっています。

さまざまな目的で人々が滞在し行き交う繁華街。再開発に向かう池袋西口。

そんなまちを55年に渡り見守ってきたロサ会館の中に生まれる展望室に、どうぞお越しください。

■無料・予約不要（一部、要予約・有料あり）

居間 theater いま・シアター

[東 彩織、稲継美保、宮武亜季、山崎 朋]（あずま・さおり、いなつぐ・みほ、みやたけ・あき、やまざき・とも）

2013年から東京谷中にある最小文化複合施設「HAGISO」を拠点に活動をスタート。カフェ、ホテル、区役所、待合室など、既存の“場”とそこにある“ふるまい”をもとに作品を制作。音楽家や美術家、建築家、空想地図作家、研究者など分野の異なる専門家との共同制作にも取り組む。

現実にある状況にパフォーマンスを掛け合わせることで、独特の体験型作品をつくり上げている。

これまでに、通常営業するカフェでコーヒーと同じようにパフォーマンスを注文できる「パフォーマンスカフェ」（2013～/HAGISOほか）、区役所の一角にアートを推進する架空の窓口を開設した「パフォーマンス窓口」（2015・2016/豊島区 としまアートステーション構想）、岩手県釜石市の人々の記憶をテーマにしたワークショップ「日常のーコマを土偶にしようワークショップ」（2020/釜石市、東京大学社会化学研究所 危機対応研究センターとの協働）、美術館を食堂に仕立てる「ジャイアント食堂」（2022/八戸市美術館）、公園内で独自の占いを体験する「うらないうら道」（2022/墨田区 隅田川 森羅万象 墨に夢）などを実施。

柿崎麻莉子×栗 朱音、島地保武×環ROY (ダブルビル)

東京芸術祭×愛知県芸術劇場× Dance Base Yokohama

パフォーマンス・セレクション 2023 in Tokyo

柿崎麻莉子 新作 『Can't-Sleeper』

演出・振付：柿崎麻莉子

共同振付：アリス・ゴドフリー

出演：柿崎麻莉子、栗 朱音

島地保武 × 環ROY 新作

演出・振付：島地保武

演出・音楽：環ROY

ドラマトゥルギー：長島 確

出演：島地保武、環ROY

日程：10月21日（土）～22日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト



時代の空気を掬い取り身体をメディアとして社会へと問いかける2作品

バットシェバ・アンサンブル出身で今世界で注目を集める振付家のシャロン・エイヤール率いるL-E-V ダンスカンパニーのもとで活動してきた柿崎麻莉子が、心地よい「眠り・不眠」をテーマにアリス・ゴドフリー（元 NDT）と共同で創作した新作を、鈴木竜、山崎広太、エラ・ホチルドなど国内外の振付家の作品で踊るダンサー・栗朱音と共に上演します。

また、世界的な振付家ウィリアム・フォーサイスとの活動をはじめ、国内外で作品を発表してきたダンサーの島地保武と、音楽を軸にパフォーマンスやインスタレーションといった多彩な領域で活躍するラッパーの環ROYが、前作 愛知県芸術劇場製作 ダンスとラップ『ありか』に続きタッグを組み、流動する世界を見つめる新作を発表します。

<チケット情報>

■発売日：8月5日（土）10:00～

柿崎麻莉子 かきざき・まりこ

DaBYレジデンスアーティスト。香川県出身、元新体操選手。Batsheva ensemble Dance Company（2012-2014）に所属後、L-E-V Sharon Eyal/Gai Behar（2015-2021）に所属し、世界各国で公演・WS指導を行う。2011年韓国国際ダンスフェスティバル金賞、2013年度香川県文化芸術新人賞、2014年Israel Jerusalem Dance Week Competition、2020年日本ダンスフォーラム賞、2021年日本ダンスフォーラム賞、など受賞。2021年カルチャーセンター「beq」を熊本にOPENし、文化や芸術をカジュアルに楽しめる場を目指して活動中。「GAMAMA」を主催し、オンラインWSなどを実施。Gaga指導者。愛知県芸術劇場×DaBY「パフォーマンス・セレクション」では鈴木竜演出・振付『When will we ever learn?』『never thought it would』に出演。

栗 朱音 くり・あかね

長野県出身。クラシックバレエを幼少から始める。日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。大学でコンテンポラリーダンスや振付に出会い学び始める。これまでYUKIO SUZUKI projectsに参加し、山崎広太、鈴木竜、エラ・ホチルドなどの国内外の振付家の演出、振付の下で踊る。イスラエルに短期留学し、現在は舞台をはじめパフォーマンスや振付など幅広く活動している。

島地保武 しまじ・やすたけ

DaBYゲストアーティスト。2006～15年ザ・フォーサイス・カンパニーに所属。酒井はなのユニットAltneu〈アルトノイ〉を結成。資生堂第七次椿会メンバーになりパフォーマンスに加えインスタレーション作品を展示。近年は、愛知県芸術劇場製作での環ROYと共作共演の『ありか』、フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラム（ファブリック・シャイヨー）に日本人で初めて選ばれ滞在制作をし『Oto no e』を創作。DaBYの企画では「ダンスの系譜学」ウィリアム・フォーサイス振付、『Study #3』よりデュオに安藤洋子と出演。

環ROY たまきろい

DaBYゲストアーティスト。1981年、宮城県生まれ。主にラップを用いた音楽作品の制作を行う。これまでに6枚の音楽アルバムを発表、国内外の様々な音楽祭に出演。近年は、パフォーマンス『ありか』バリ日本文化会館（2020年）、絵本『ようようしょうてんがい』福音館書店（2020年）、展示音楽『未来の地層』日本科学未来館（2019年）、NHK教育『デザインあ』コーナー音楽（17年）、映画『アズミ・ハルコは行方不明』劇伴音楽（2016年）などの制作を行う。ミュージックビデオ「ことの次第」が第21回文化庁メディア芸術祭にて審査委員会推薦作品へ入選。

テアター・エカマトラ『マライの虎』を巡るトーク (事前上映つき)



日程：10月21日（土）、27日（金）
会場：東京芸術劇場 シンフォニースペース

昔の映画をアップデートすることにどんな意味がある？

演劇によるリメイクが拓く通路

戦時中のプロパガンダ映画をシンガポールと日本の俳優が舞台上で演じ直していくことで、歴史改編の問題や、演じる役と俳優との属性の一致に関する議論など、いま映画や演劇の作り手が避けて通れないトピックを、鋭くしかしユーモアをもって問いかけている本作（作：アルフィアン・サアット、演出：モハマド・ファレド・ジャイナル）。

2018年にシンガポールで上演した際の記録映像を事前にオンライン配信します。10月27日（金）にはアーティストとプロデューサーが来日し、専門家を交えたトークセッションを行います。

■無料（要予約）

*アクセシビリティ：映像／日本語字幕付き（英語、マレー語、中国語、日本語上映）
トーク／日本語のみ（10月21日）、英語・日本語通訳あり（10月27日）

テアター・エカマトラ

1988年に東南アジアの伝統的な演劇様式と現代的なテクニックを融合させた「現代的で実験的なマレー演劇」の開発を目指し創設されたシンガポールのカンパニー。多様な民族、文化、言語にスポットライトを当てるとともに、政治的な課題にも大胆に切り込む作品を上演している。シンガポール国際芸術祭（SIFA）2022で上演した『Bangsawan Gemala Malam』で、ST Life Theatre 賞3部門で受賞。フェスティバル/トーキョー20ではオンライン作品『Berak』を発表した。

東京芸術祭ファーム2023

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであったAPAF（Asian Performing Arts Farm）に、フェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し2021年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリで様々なプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になる様々なボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加など、舞台観劇を通して、考え、交流する機会を提供します。

■東京芸術祭ファーム ラボ

- ・ 公開レクチャー
- ・ Asian Performing Arts Camp
- ・ 制作アシスタント
- ・ アートトランスレーターアシスタント
- ・ ファーム編集室 アシスタントライター

■東京芸術祭ファーム スクール

公開レクチャー

講師：林立騎（翻訳者・演劇研究者／那覇文化芸術劇場なはーと）

日程：8月23日（水） 18:30～21:00

オンライン配信（Zoom）

「東京芸術祭ファーム ラボ」の参加者対象に実施するレクチャーを一般公開

翻訳者・演劇研究者／那覇文化芸術劇場なはーとの林立騎氏をレクチャーの講師に迎え、「東京芸術祭ファーム ラボ」のアジアを拠点に活動する参加者とともにディスカッションを行います。

また、本プログラムは事前申し込みにより、一般の方々も参加可能です。

■無料（要予約）

* 日本語（英語逐次通訳あり）

林立騎 はやし・たつき

翻訳者、演劇研究者。現在、那覇文化芸術劇場なはーと企画制作グループ長。訳書にエルフリーデ・イエリネク『光のない。』、ハンス＝ティース・レーマン『ポストドラマ演劇はいかに政治的か？』（ともに白水社）。イエリネク作品の翻訳で小田島雄志翻訳戯曲賞を受賞（2012年）。2005年より高山明の演劇ユニットPort Bに、2014年より相馬千秋のNPO法人芸術公社に参加。東京藝術大学特任講師（2014-17年）、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー（2017-19年）、キュンストラーハウス・ムーヴントゥルムドラマトゥルク（2019-21年）を経て、22年より現職。

Asian Performing Arts Camp In-Tokyo Sharing Session

登壇者：Asian Performing Arts Camp参加者
 モデレーター（Asian Performing Arts Camp
 ファシリテーター）：山口恵子 — 京都（日本）
 ジェームズ・ハーヴェイ・エス
 トラダ — リサール（フィ
 リピン）



APAF2019 Lab.最終プレゼンテーション『A NEW ASIA』
 Photo by Kazuyuki Matsumoto

日程：10月9日（月・祝）

会場：東京芸術劇場

アトリエイースト・アトリエウエスト

約2ヶ月にわたるアートキャンプを経た、 アジア各地のつくり手たちによるプレゼンテーション

Asian Performing Arts Campは、アジア各地で活動する舞台芸術の人材がそれぞれのテーマや問題意識を出発点に、リサーチやフィールドワーク、文化や国籍を超えたディスカッション、レクチャーやワークショップを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを耕すためのアートキャンプです。2023年度は、オンライン活動と約一週間の東京への滞在を組み合わせ「ハイブリッド型キャンプ」として実施します。

東京滞在の最終日に実施されるIn-Tokyo Sharing Sessionでは、参加者それぞれが期間中に取り組んだリサーチの結果を一般公開で発表し、ゲストフィードバックを迎えてのフィードバックセッションを行います。参加者にとっては、様々な視点でのフィードバックをもらうことで、リサーチやアイデアをさらに発展させるきっかけとなると同時に、それらをローカルな場に持ち帰り、各自のフィールドで次の一步を踏み出すための機会でもあります。当日は、オーディエンスと参加者のインタラクティブなやりとりも取り入れ、オーディエンスのみならず一人ひとりが、それぞれのプレゼンテーションにフィードバックできる仕組みもつくりまします。

■無料（要予約）

* 日本語・英語開催（逐次通訳あり）

山口恵子 YAMAGUCHI Keiko

京都在住、俳優、演劇をつくる人。2011年に演劇グループBRDGを立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団PETAと協同で『ふれる〜ハプロス』を発表、オンライン作品『HELLO』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレピトの会、したため、りっかりっか*フェスタ（沖縄）の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Labに参加し、翌年のAsian Performing Arts Camp 2021と2022で共同ファシリテーターを務める。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送している。<https://brdg-ing.tumblr.com>

ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ James Harvey ESTRADA

演劇作家、メディア・プラクティショナー、作家、アーティスト・エドゥケーター。連帯、フェイクニュース、人権をテーマに、アジア地域の物語や表現を織り交ぜながら、国境を越えた協働を通して創作活動を行うフィリピン人アーティスト。これまでにインドネシア、マレーシア、シンガポール、韓国、日本、ニューヨークで芸術的な交流に参加し、作品制作を行った。マニラを拠点とする現代パフォーマンスカンパニーThe Scenius Pro.芸術監督を務め、ろう者コミュニティの強化、HIV感染者に対する差別撤廃、海外フィリピン人労働者の窮状を訴えるパフォーマンスを考案した。アンゴノの芸術高等学校で舞台芸術を指導し、フィリピン工科大学ではメディア制作と舞台芸術について講義を行う。PUP COC SIKAT AWARDSにおいて、パンデミック禍での芸術活動に対し「PANDEMIC ACHI EVER 2022」を受賞。テアタートレフエン2023（ドイツ）International Forum 参加者。東京芸術祭ファーム2022 Asian Performing Arts Campでは、共同ファシリテーターとして、テーマである「Performing Hybridity and Prototyping Trans-time（ハイブリッド性の上演／「越時的なもの（Trans-time）」のプロトタイピング）」を探究するアーティストを募集した。

<https://jeymsharbi.wordpress.com>

制作アシスタント

今後、国際的なフィールドで活動していきたいと考えている日本国内の舞台制作者が、国際的なプロジェクトのマネジメント経験を積むプログラム。参加者は、東京芸術祭ファーム「Asian Performing Arts Camp」の制作チームとして、海外アーティストの招聘業務や様々なバックグラウンドをもつ作り手たちのディスカッションを通じた学びの現場で、制作補助業務を行います。

ファーム ラボ

アートトランスレーターアシスタント

日本語⇄英語の通訳・翻訳業務を通じて、創作現場のコミュニケーションをサポートしながら、実践に根ざしたノウハウを学ぶプログラム。コミュニケーションデザインチームのもと、アートトランスレーターアシスタントとして東京芸術祭ファーム「Asian Performing Arts Camp」の現場で活動します。

ファーム ラボ

ファーム編集室 アシスタントライター

舞台芸術をつくり、届けるプロセスに「書く」を通じて参加する、実践的プログラム。「Asian Performing Arts Camp」のプログラムに立ち合い、その記録としての記事執筆を担当します。

スクール・教育普及

スクール

舞台芸術を通して、考え、交流する学生のためのプログラム。東京芸術祭に参加しているアーティストやスタッフなど舞台芸術に携わるプロフェッショナルと学生との対話、舞台芸術に関心がある学生間の交流の機会を提供します。

■東京芸術祭 2023 特設サイト

東京芸術祭 2023の情報をまとめた特設サイトは、8月1日（火）公開予定。

URL（予定） <https://tokyo-festival.jp/2023>

■チケット情報

すべてのチケット情報は、8月1日（火）公開予定の特設サイトにてわかりやすく取りまとめます。ぜひ、ご活用ください。

■東京芸術祭とは

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型の総合芸術祭で、2016年から豊島区池袋エリアを中心に開催しています。

■開催概要

名称：東京芸術祭 2023

会期：2023（令和5）年9月1日（金）～10月29日（日）

会場：東京芸術劇場、ロサ会館、東京都豊島区池袋周辺エリアほか

主催：東京芸術祭実行委員会 [公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都]

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

※内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

主催

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

協賛

アサヒグループジャパン株式会社

■東京芸術祭実行委員会事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス5F

アーツカウンシル東京 内